

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ココトモビレッジ楓枝		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数) 3人
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○訪問先施設評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	3	(回答数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月1日		2026年2月28日

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者に寄り添った支援力	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様の思いや困り感を丁寧に傾聴しています。 ・ペアレントトレーニングや療育整体など、家庭に還元できる支援を実施しています。 ・「安心して話せる場」の関係作りを意識しています。 	保護者様支援で得た気づきを訪問先とも共有し、三者連携を強化していきます。
2	学校(園)の方針を尊重した伴走型支援	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問先に対して「指導」ではなく「尊重と理解」を大切にしています。 ・現場の先生の困り感を引き出しながら関係構築を意識しています。 ・無理のない提案(現場で実行可能な支援)をおこなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方との信頼関係をさらに深め、相談しやすい存在となります。 ・「一緒に考える支援者」としての立ち位置を強化していきます。
3	多角的な専門性を活かした支援	<ul style="list-style-type: none"> ・行動面だけでなく「身体・感覚・神経」からのアプローチをおこなっています。 ・そのお子さんの本質(特性・気質)を捉えた関わりを重視しています。 ・支援に一貫した「軸(皮脳同根・神経へのアプローチ)」があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問先にもわかりやすい形で専門性を言語化・可視化していきます。 ・学校(園)でも実践できる簡単な支援方法として共有していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援内容や連携の「見える化」不足	<ul style="list-style-type: none"> ・実際には支援しているが、保護者様への説明や共有が不足しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書やフィードバックの簡略化・具体化をします。 ・「何を・なぜ・どう変わったか」を明確に伝えます。 ・定期的な振り返りの機会を設けます。
2	訪問先との連携の深さにばらつき	<ul style="list-style-type: none"> ・学校(園)側の理解度や受け入れ体制に差があります。 ・遠慮や配慮により踏み込みが弱くなる場合があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問時の目的・役割を明確化します。 ・短時間でも「共有・確認」の時間を必ず確保します。 ・信頼関係構築を意識した継続的関わりを持ちます。
3	緊急時対応など体制面の整備不足	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問支援における役割の曖昧さがあります。 ・事前の取り決めや共有不足があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の想定(体調不良・事故・災害)を明文化します。 ・訪問先との対応フローの確認をおこないます。 ・最低限の共通認識づくりをおこないます。